

2024年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園すがも

保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに
自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

保育目標



共感性

自分の気持ちを大切にし
他者の気持ちも大切にする
こども



内発性

自らの内なる声を聴き
主体的に動くこども



創造性

自由に考え
創造するこども

シチズンシップ保育5つの基本

1. 感情を知る
・感じる

2. やってみたい
はチャンス！

5. 対立は当たり前。
話し合って解決する

3. 小さなことでも
自分で決める

4. わたしはわたし
違うことを認め合う

1,活動のテーマ

<テーマ(こどもたちの興味・関心を深める)>

食育

<テーマの設定理由(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)>

偏食がある子の保護者から野菜を食べないなど心配する声や、他児の食事の様子を聞かれることが多く、園全体で取り組んでみたいと考えたため。

2,活動スケジュール


10月：親子遠足 お弁当

11月：食材の買い物

12月：クリスマスケーキ作り

1月：献立作り&バイキング給食







【実践記録】

日付	2024/10/17 (木)
「問い」	いつもの給食をお弁当の形式にして、ピクニックのような雰囲気 で食べると、苦手なものを食べられるか？
環境のデザイン	プラスチックのお弁当箱、子ども用パックお茶、大人用ペット ボトルお茶、ブルーシート 保育室でブルーシートを敷き、親子で一緒にお弁当を食べられ るようにする。
探究活動	親子遠足後、保護者とブルーシートの上に座り、保育者の紙芝 居を見る。その後、お弁当とお茶を配布し、それぞれ自由に食 べ始める。保育者も傍で見守りながら、一緒に話したり、おか わり分を配ったりして、様子を見守る。 離乳食児はいつもの給食の形式で、保護者と一緒に食べる。ま た、保護者にもお弁当を食べてもらえるよう、保育者が一時的 に子どもの食事介助を行った。 紙芝居中は保護者から離れて保育者の方へ来たり、食事後は保 護者と保育者の間を行ったり来たりして、楽しむ子が多かつ た。 食事中は保護者と同じものを一緒に嬉しそうに食べる子や好き なものを保護者の分まで食べる子など、それぞれ楽しんでい た。残食はいつもに比べると少なかった。
活動の様子	



振り返り

- ・いつもの保育園で保護者と一緒にお弁当を食べられて、子どもたちはとても嬉しそうだった。
- ・いつもの給食の形式ではなく、お弁当箱に詰めた形にしたことで、いつもより食事の進みはよく、よく食べていた。
- ・残食が少なかった要因の1つとしては、子どもは好きな物を食べ、保護者が残った野菜類を食べていたこともあった。
- ・食事中や食事後に、保護者から家での食事の様子を伺ったり、逆に園での様子を詳しく伝えられたりし、よい時間となった。
- ・調理職員の手間は増えてしまったが、たまにこのような形式の食事を行うことで、苦手なものを食べるきっかけ作りになるように感じた。

日付	2024/11/22 (金)
「問い」	苦手な食材を自分たちで買ってきて、素材を触ってみることで、興味を持ち、食べてみようという意欲につながるか？
環境のデザイン	きゅうり、玉ねぎ、ほうれん草、 子どもが持つリュック
探究活動	<p>自分たちでスーパーに行き、食材を買って持って帰ってくる。食材を触ってみたり、匂いを嗅いだりしてから、調理の先生へ渡して給食を作ってもらう。</p> <p>今回は1歳児クラスのみで買い物に行ったが、帰ってきてから他のクラスの子にも給食の食材を買ってきたことを共有した。</p>
活動の様子	     

<p>振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べることが苦手な食材でも、写真や実物を見せると興味を示し、触ってみたり、匂いを嗅いだりしていた。 ・ 自分で選んで買い物をして、リュックに入れると、嬉しそうにリュックを背負っていた。 ・ 実物の匂いを嗅いだ時、苦手な食材でも「いい匂い」と話していたが、実際に食べる時は、やはり食べない子が多かった。一人は一度は口に入れたが、そのまま出してしまった。 ・ 買い物には行っていない2歳児クラスの子は、「〇〇ちゃんが買ってくれたきゅうりだ」と言って、食べている子が多かった。 ・ 1歳児クラスの子たちには、まだ自分たちで買ってきたものが給食に出てきたという認識ができていなかったように感じた。2歳児クラスになると、そういう認識ができるようになるのかもと考えた。 ・ 当日以降の給食で、ほうれん草を食べようとしないう1歳児クラスの子に、以前に自分たちで買い物をしたほうれん草と同じと伝えと、自分から少し食べることが出来た。買い物をした記憶が、子どもの中に残っていてよかった。
--------------------	---

<p>日付</p>	<p>2024/12/24</p>
<p>「問い」</p>	<p>自分たちで食材を買い、自分たちで一部を作ったものは、意欲的に食べるのではないか？</p>
<p>環境のデザイン</p>	<p>桃缶、みかん缶、いちご、キウイ、生クリーム、子どもが持つリュック、泡立て器、ボール（食べる生クリームは調理の方に作ってもらう）、牛乳（生クリームに見立てる）</p>
<p>探究活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスマス会のおやつ食材を買いに行く。調理の先生から頼まれた食材を保育者から伝えられる。 ・ それぞれリュックを背負ってスーパーへ向かう。 ・ スーパーでは、調理の先生に頼まれた食材を思い出しながら、自分たちで探してカゴに入れる。

- ・レジで「お願いします」と店員さんに伝えて買い、自分たちのリュックに入れて、園へ帰る。
- ・調理の先生に1人ずつ手渡すと、満足そうな笑顔を見せる。
- ・ボールと泡立て器を借りて、次の日の生クリームを作る練習をする
- ・クリスマス会当日の給食前に、おやつ生クリーム作りをする。牛乳を生クリームに見立てて、泡立て器で泡立てる。「これ、牛乳の匂いがするね」と話していた。
- ・おやつの中には、保育者と一緒にケーキ作りをする。パンケーキの上に好きな果物と生クリームを自分で乗せて食べた。保育者に「私が作った生クリーム、美味しいでしょ？」と嬉しそうに話していた。

活動の様子



振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自分たちで食材を買う」「自分たちで作る」ということに、2歳児クラスの子はとてもやる気が出ていた。 ・ 生クリーム作りは1人の子がやりたいと言い出したことだったが、本物の泡立て器やボールを使って混ぜる体験はどの子もとてもイキイキとした姿が見られ、とてもよかった。 ・ 保育者も一緒におやつを食べたことで、先生に自分が作った生クリームを食べさせてあげられたという喜びを感じているようだった。 ・ クリスマス会前後で体調不良により休む子が続出し、実際にこの体験に参加できた子がとても少なく残念だった。 ・ 「自分で食材を買って作る」という体験は、より食材へ興味が向けられ、食欲に繋がる体験となったように感じる。
------	---

日付	2025/1/21～23
「問い」	自分たちで献立の副菜を考え、買い物をして、バイキング形式の給食をすることで、苦手な食材を食べようという意欲につながるのではないか？
環境のデザイン	<p>食育ペープサート、子どもが持つリュック、野菜や食材が載っている図鑑、ブロッコリー、きゅうり、人参</p> <p>バイキング形式の給食、お盆、マヨネーズドレッシング</p>
探究活動	<p>①食育ペープサート「食べるでござる」を見る。(1～2歳児クラス)</p> <p>②カレーと一緒に食べる副菜を考える。(2歳児クラスのみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の写真を見せながら『副菜』を説明する。 ・ 3つの野菜を図鑑を見ながら選ぶ。それぞれ自分の好きな野菜を図鑑で指さして話していた。 ・ 自分が選んで持ち帰る野菜を一人ずつ決める。 <p>③買い物に行く。(2歳児クラスのみ)</p> <p>自分が担当した野菜をスーパーで選んで買い、自分たちで背負ったリュックに入れて持ち帰った。予定していた野菜が一種</p>

類スーパーになかったので、その場にある野菜の中から選んで買うことも出来た。

④買った野菜をスティック野菜にして、バイキング形式の給食を食べる。(1~2歳児クラス)

・子どもに食材を見せて選ばせて、お皿に盛り付ける。マヨネーズドレッシングをかけた子にはかけた。

・「〇〇ちゃんが買ってきたブロッコリー」と言って、1歳児クラスの子が興味を示し、よく食べている子もいた。

・いつもより野菜をおかわりする子が多かったが、人参スティックを選ぶ子が少なかった。

活動の様子



振り返り

- ・ 保育者側からは「緑の野菜」を食べない子が多いと感じていたが、思ったよりブロッコリーは人気があった。ブロッコリーが入った副菜が残った日があったが、食材の問題ではなく、味付けの問題だったのかも気付かされた。
- ・ 肉や魚、ご飯に比べて野菜は好きな子が少ないと感じていたが、図鑑を見ながら話していると、野菜を食べない子でも好きな野菜があることを実感した。
- ・ 人参はどちらかと言うとよく食べる子が多い野菜だが、形状の問題なのか、今回は選ぶ子が少なく人気なかった。1〜2歳児にはスティックより細かくした方が良いように感じた。
- ・ 複数の種類から自分で選んでお皿に取ってもらうと、残さず食べたり、おかわりしたり出来たように思う。また、特に2歳児は友達が選んでいる様子をよく見て、自分も選ぶ姿があり、相乗効果が出ていた。